

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立岐阜西中学校

校長名 村田 明治

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	○子どもが岐阜市への見識を深め、自己の生き方に生かせるよう、ぎふMIRAI'sを計画的に実施する。 ○教育DXの推進し、各教科において、子どもが仲間と共に学びを深める場(協働的な学び)を位置付けた学習過程を工夫する。	B	・学校、学年それぞれの立場でぎふMIRAI'sの計画的な学習の実現に向けて、実践計画案を作成して実践できた。 ・スタディサプリやロイロノート等のソフトをはじめ、タブレットをもとに子どもたちが自学に取り組むだけでなく、ロイロノート等を利用して互いの意見を交流し合い、学びを深めることができるよう試行を重ねることができた。	・当初の計画をもとに、「ぎふMIRAI's」の取組を積極的に実践している様子が見える。 ・タブレットを効果的に利用した授業の取組が確認できる。グループ、仲間同士で協力し合う学習もタブレットを活用する様子が見られ、今後が期待できる。 ・ロイロノートを大いに活用している様子が子どもの姿から伝わってくる。	・総合的な学習の時間を中心として、今年度の計画を見直し、探究的な学習としての「ぎふMIRAI's」が実践できるよう取り組むこととする。 ・学習の個別最適化をめざし、タブレットの活用方法を一層工夫し、子どもたちが個々のニーズに応じた活用ができるよう指導を進める。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	○いじめの未然防止をはじめ、子どもが生命の尊厳への理解を深める自主的な取組を工夫して地域へ発信する。また、子どもが地域の活動に参画する機会を紹介し、活動の充実感をもとに地域への帰属意識を高める。 ○学習指導はもとより、いじめの未然防止の取組を小中一貫して進められるよう共通活動を実施する。	B	・回覧板を通して、地域住民の方々に対し、学校運営協議会の活動として学校の取組(ピンク・ピースウィーク、あいさつ標語の作成等)への協力・参加を啓発することができた。また、地域の行事の運営にあたり、ボランティアとして中学生が活動する場を位置付けることができた。 ・上記のいじめ未然防止の啓発活動等の実施にあたり、校区内の小学校へも同時開催を呼びかけ、共に取り組むことができた。	・いじめの未然防止の取組をはじめ、生徒の積極的な活動や本協議会の取組が新聞記事として多く取り上げられている。中学生が地域行事に積極的にボランティアで参加していることと併せて、地域社会にとって望ましい環境づくりに貢献している。 ・本協議会と校区内の小中学校が密に連携を図り、地域活動へのボランティア参加により地域と学校のつながりが深まった。	・今年度同様、本協議会の協力を得ながら、いじめの未然防止の啓発活動を小学校や地域へ広げることができるよう活動内容と方法を工夫する。 ・再開されつつある地域での諸行事における中学生のボランティア活動の場を積極的に紹介し、実際の活動の様子を地域へ発信することにより、子どもたちの健全育成への協力を啓発する。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	○各自が学年部、指導部の役割を生かし、協働意識のもとに業務を進める職場づくり(相互援助、切磋琢磨、コミュニケーションの活性化)を推進する。 ○研修主事を核として、意図的・計画的な研修を実施する。	B	・教育課程を工夫し、職員が年齢差、経験差を踏まえ、学年部の中で切磋琢磨できるよう、話し合いの時間を確保した。共通理解・共通行動をもとにした各自の独自性を発揮した実践が進みつつある。 ・計画的な研修とともに時勢に応じた研修(コンプライアンス、防災教育等)を位置付けるよう試行した。	・職員の勤務の様子から、互いに切磋琢磨し合い、子どもへの教育に尽力しようとしている様子が見える。 ・研修の実践内容を定期的に評価し、今後に生かせるよう努めていただきたい。 ・職歴や年齢に関係なく相談しやすい職場環境を生み出せるよう、今後も努めていただきたい。	・一層同僚性が高まるよう、放課後に学年部、指導部、教科部での職員間でのコミュニケーションの場を保証する。 ・計画的な研修に加え、執務に生かせる日常的・実践的な研修を実施する。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	○危機管理マニュアルをもとに、多様な事態を想定した職員研修や「命を守る訓練」を実施する。 ○事例研修をもとに各種感染症等や食中毒の予防、食物アレルギー対応の徹底を図る。	B	・地震、火災に加え、水害を想定した垂直方向の訓練を初めて実施することができた。また、保護者への引き渡し訓練も実施できた。 ・上の項目とも重なるが、各種報道や通知・通達をもとに職員研修を実施した。	・能登半島地震を題材として、学校の防災教育を深めるとともに、保護者に対しても有事の際の家庭での行動の仕方を話し合うよう啓発する必要がある。 ・広域災害に向けて、小中連携した引き渡し訓練は今後も実施していく必要がある。 ・学校南側の輪中堤を教材とした水害防止の学習を進めるとよい。	・今年度同様、多様な条件のもとでの「命を守る訓練」を実施する。また、不審者対応訓練を実施する。 ・校区内の輪中堤を題材とした防災教育を実施する。 ・小中連携した引き渡し訓練を実施する。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	○学校徴収金の徴収をはじめとした会計業務のシステム化を一層推進するとともに、予算を適時的且つ有効に執行する。 ○教育DXの推進、ICT機器の活用により、ペーパーレスを一層推進する。	B	・計画的な支出と適切な会計報告を意図し、統一したシステムを運用した。 ・ペーパーレスを徹底した結果、市から紙の使用量の削減に伴う予算の追加配当を受けることができた。	・スマート連絡帳の活用により、ペーパーレスの取組が確実に伝わってくる。 ・校内に危険な箇所がなく、よく整備されている。清掃も行き届いている。 ・優先度の高いものから予算配分を計画して支出している。予算の効果的な活用がなされている。	・美しく安全な学校環境を目指し、安全点検を確実に実施する。必要に応じて、計画的に修繕等を行う。 ・備品については、要望だけでなく、現有品の新旧をもとに総合的な判断をもとに購入する。 ・ペーパーレスに限らず、不要な消耗品の節約を心掛ける。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/gifunishi-i/>